南知多の旅 2023

2023 年 4 月

旅のチカラ研究所　植木圭二

伊勢湾に突き出た知多半島、その南部の南知多町の日間賀島（ひまかじま）に友人たちと行ってきた。帰りは渥美半島に渡り、豊橋から帰宅したので三河湾を回る旅になった。

■南知多へ

7 年前に行ったピースボートによる地球一周の船旅の同窓会が名古屋で開かれた。私はその船旅で知り合った何人かの友人たちを誘って同窓会に参加した。

そしてせっかく名古屋に来たのだからこの近辺を旅行することにした。メンバーは最近よく一緒に旅行しているヒデさん、ヨコさん、キキちゃん、姉ちゃんと私を入れて５人だ。

しかし名古屋もその周辺も、私だけでなく他の 4 人も既に何回も訪れている。それでも刺激的な行き先を考えていたら知多半島の先にいくつかの島があったことを思い出した。最近島巡りに興じている私は「島は面白いぞ」とヒデさんに言うと、彼も賛同してくれた。私は海外旅行に行くので対応する余裕がなく、プランニングと予約を彼に頼んだ。たまには他人の旅行計画に乗っかるのも面白い。

かくして知多半島の先にある日間賀島を目指す旅が企画される。

知多半島は名古屋から真南に伸びた伊勢湾の東端を突き出た半島で、豊橋から西に突き出た渥美半島とでカニのハサミに例えられることがよくある。

そしてこの 2 つの半島に囲まれた湾が三河湾になり、三河湾の奥が三河の国になる。

■焼き物の街

同窓会の翌日の朝、名古屋駅から名鉄電車に乗り男女 5 人の珍道中が始まる。

まずは焼物の街で有名な常滑で電車を降りて「やきもの散歩道」を散策する。実は私にとって常滑は初めてで、他のメンバーも同様らしく目をキョロキョロしながら歩いている。

常滑焼は、平安時代末期に穴窯が築かれ、茶碗や皿、壺などが作られた。当時日本の焼物の産地といえば日本六古窯で、常滑以外にも瀬戸、信楽、丹波、備前、越前だったというからそうそうたる産地がそろっていた。その中でも常滑は大きな生産地で、特に大型のものを特長としていた。明治時代になって、それまでの山の斜面に築かれていた窯が平地に築かれるようになり機械化も始まり、窯も改良されて製品の種類も生産量も増加して近代産業の仲間入りをした。

今私たちの目の前には窯や、そこで焼いた焼物がたくさん並んでいる。さすがに日本六古窯で大型の焼物の産地だったと納得する。

【市内の窯】

【焼物に囲まれた路】

登窯という窯がある。この窯は明治時代に築かれたもので、20 度の傾斜地に造られた 8 つの窯には高さの異なる 10 本の煙突がある。国の重要有形民俗文化財に指定されている。

その登窯の近くでお茶をしている地元の人たちがいて、その人たちと話しを始める。何しろ同行のメンバーは地元の人や旅行者の誰とでも気軽に話をするから面白い。

【登窯】

【地元の人たち】

■師崎（もろざき）

常滑からバスと電車を乗り継いで知多半島の先端にある師崎（もろざき）港を目指す。待ち時間も合わせると結局 3 時間もかかって師崎港に到着する。何しろ本数が少なく乗り継ぎも良くないので、途中あのバスを手前で降りていたらもう一本早い電車に乗れたとか、テレビ番組のバス・電車の乗り継ぎ旅のようなことになってしまうが、こんな旅もまた楽しい。むしろ自分で計画していないのが良かったのかもしれない。

師崎港のちょっと先に羽豆（はず）岬があり、その高台には羽豆神社と羽豆岬展望台がある。今回の旅で最初の神社なのでまずは旅の安全を祈願する。そして展望台から海を臨むと、これから行く日間賀島が直ぐ近くに見える。さらに右をみると渥美半島も見ることができ、多くの船が行き来している。

【羽豆岬展望台から見た日間賀島】

港に戻ってくると茶屋のような食堂があり、「寄って行かないか」と店のおばさんが声を掛けてくる。最初はあまり乗り気ではなかったが、イカや貝を焼く香ばしいいい匂いが漂ってくる。その店の暖簾には「名物 大あさり焼」と書かれている。

キキちゃんが「大あさり焼、食べたい」と叫んでいて、彼女の知り合いがここの出身で、「いつも美味しい大あさりを持ってきてくれた」と言っている。私も先日行った九十九里の旅では焼きハマグリを食べ損じたので、これには諸手を上げて賛成する。

大あさり焼は適度な醤油味で香ばしく、実に美味い。大きなあさり 2 枚で 900 円は、高いかも知れないが、その価値は充分にあるだろう。

【羽豆神社にて集合写真】

【大あさり焼】

■タコとフグの島

高速船に乗り込み、日間賀島に渡る。約 10 分で着いてしまうから船旅を楽しむということもない。日間賀島はタコとフグが有名で「多幸（たこ）と福（ふぐ）の島」というキャッチコピーはなかなかセンスが良い。それゆえ港にはタコのオブジェがあり、来島者を出迎えてくれる。

この島は周囲約 5.5km の小さな島なので歩いて島内を散策する。至るところにタコがあり、目に留まる。マンホールの蓋、駐在所もタコの装飾が施されている。

【港のタコのオブジェ】

【タコの装飾の駐在所】

【マンホールの蓋】

高速船が着く港以外に島の北側には大きな漁港があり、この漁港に係留されている船の数は半端でないほど多い。とても人口 1800 人の島の船の数とは思えない。それほど多くの魚や海産物が獲れるのだろう。

【島の北側の漁港　たくさんの船が係留されている】

漁港の脇の道路に面したところに掘っ建て小屋がある。覗いて見ると少し高齢のおばさんたちが集まって話をしている。姉ちゃんが「何しとんの？」と関西弁で聞くと、おばさんたちが「茶飲み話だよ、寄っていくかい、楽しいよ」と三河弁で答えてくれる。仲間たちは物おじせずにその小屋に入って行こうとしているので、誰かが慌てて「先を急ごう」と言って離れる。

【おばさんたちの集まる小屋】

■豪華な夕食

本日の宿は島内の南側の崖の上に建つ「ホテル日間賀荘」で、部屋からは海が見え、隣の篠島も近くに見える。日間賀島から篠島までは 2km しかない。

早速大浴場に行くと、大浴場からの眺めも部屋と同じで、海と篠島を見ながらの入浴になる。この島は火山島ではないので温泉は出ないが、この景色は下手な温泉よりも価値がある。

【大浴場から眺め　海と隣の篠島が見える】

夕食になる。この宿の食事は凄く豪華だとヒデさんが言っていたので、全員が昼食は大あさり焼だけにして炭水化物をとらなかった。食事処に行くと、まずはテーブルには先付と刺身盛が置かれている。そして次から次へと料理が出てくる。

【先付】

【刺身盛】

シラスのような透明な小魚は多分ノレソレ、伊勢海老の刺身、茹でダコ、煮魚、茶わん蒸し、〆のご飯ではなくタコ飯、海辺の宿なのに何故かローストビーフ、焼き魚、フグの天ぷら、お吸い物、白米、デザート、ものすごい品数だ。

【左からノレソレ、伊勢海老の刺身、茹でダコ】

【左から煮魚、茶わん蒸し、タコ飯】

【左からローストビーフ、焼き魚、そしてフグの天ぷら】

完食するのは至難の業で、誰も何かしら残している。それでも満足感いっぱいの顔をしている。

翌朝の朝食はちょうど良い分量で出てくる。もちろん味は良い。できたばかりの豆腐がとても美味い。地元産の味付け海苔も美味い。愛知県なので赤味噌の味噌汁で、中には伊勢海老が入っている。

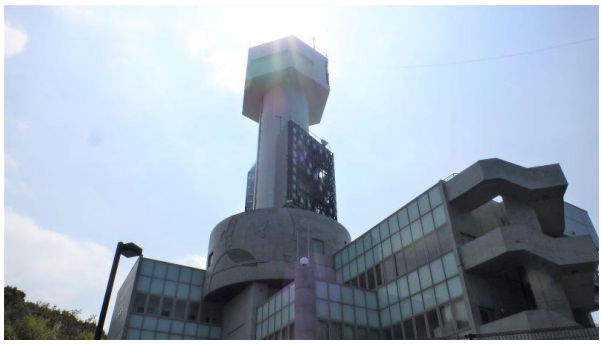
【朝食】

■渥美半島へ

せっかく知多半島の先端にある日間賀島まで来たので、ちょっと足を延ばして三河湾の南に位置するもうひとつの半島、そう渥美半島の伊良湖（いらこ）岬に渡る。

船から小高い山の頂上付近に灯台らしき建物が見えていたので、それを目指してせっせと登り始めるが、結構な距離を歩いたにも関わらずなかなか着かない。ようやく建物の門にたどり着いたら一般人は入門禁止になっている。門柱には「第四管区海上保安本部 伊勢湾海上交通センター」と書かれている。

この建物が灯台ではないことが判明し少し心が折れたが、気を取り直して再度灯台を目指し歩き始める。今度は山から下り、海辺に出たところで灯台を発見する。灯台は崖の上や山の上にあるものという固定概念を打ち消すかのように海岸の波打ち際にある。この珍しい灯台は「伊良湖岬灯台」と書かれている。



【伊勢湾海上交通センター】

【伊良湖岬灯台　先にある島は鳥羽市の神島】

さらに歩くと恋路ヶ浜という砂浜があり、そこには比較的大きな駐車場と食堂が 10 軒くらい並んでいる。

ヨコさんは「恋路ヶ浜や恋路海岸という場所は日本中、いや世界中にたくさんあって、そういう所には必ず鐘があるはずだよ」と言っている。そう思って見渡すと案の定、鐘があり、カップルが鐘を鳴らしている。

食堂で昼食を取って、店の人に伊良湖港までの道を聞くと私たちが歩いて来た反対の方向を指差して教えてくれる。言われたとおりに歩いて行くとたった 5 分で港に到着する。私たちは伊良湖岬を一周したらしい。それも山に登って、遠回りをしたことが判明する。出発時に地図を確認しないかったことが敗因だろう。

伊良湖港からバスに乗り、今度は豊橋を目指す。ここもまたバス・電車乗り継ぎ旅になる。渥美半島ののどかな風景が続き、なんとなくのんびりとした感じが気持ちを和ませてくれる。私にとって渥美半島は 2 度目の訪問になるが、前回来たのは自分が運転する車で、ゆっくり景色を楽しめなかった。今回はどちらもバス・電車旅なので、2 つの半島を比較すると、知多半島の方が大都会名古屋に近いため都会だったような気がする。

豊橋に出て、これで三河湾をぐるりと一周したことになる。

■旅の記録

実施は 2023 年 4 月 1 日（土）～4 月 3 日（月）の 2 泊 3 日、その行程を以下に示す。実質的には 2 日目からになるので 1 泊 2 日の旅と言った方が良いかもしれない。

・1 日目　昼過ぎに自宅を出て名古屋へ、名古屋市内の宴会場でピースボート同窓会出席、
　　終了後にスーパーホテルにチェックイン

・2 日目　8 時 30 分ホテル出発して名鉄名古屋駅から常滑へ、常滑市内散策
　　常滑からバスで半田へ、半田から名鉄で河和、河和からバスで師崎港、
　　港近くの店で昼食、高速船に約 10 分乗って日間賀島東港へ、
　　ホテル日間賀荘チェックイン、島内散策、ホテルに戻る

・3 日目　9 時 30 分ホテル出発して日間賀島西港から約 30 分高速船に乗って伊良湖港へ、
　　伊良湖岬灯台を見て、恋路ヶ浜で昼食、伊良湖港からバスで三河田原駅へ
　　豊鉄線に乗り新豊橋、新豊橋から新幹線に乗り帰宅、

費用は 1 人分で約 38000 円になった。それらの詳細を記す。

・ホテル日間賀荘	12840 円（2 食付き　全国旅行支援の 3000 円引き後）
・新幹線	13070 円（往復、ジパング倶楽部で 3 割引き後）
・バス、電車など交通費	約 4800 円（愛知県内、自宅～新横浜）
・高速船	約 2100 円（師崎～日間賀島、日間賀島～伊良湖）
・昼食、飲み物など	約 5000 円

参考までに 1 日目の費用は以下のようになった。

・スーパーホテル	9800 円（朝食付き）
・同窓会会費	8000 円